

試験研究成果普及情報

部 門	養 鶏	対 象	研 究
課題名：鶏の日齢による <i>Salmonella</i> Enteritidis (SE) の感受性の違い			
[要約] 鶏の日齢によるSEの感受性を検討したところ、孵化後1週以内のヒナにおいては、孵化直後のヒナが最も高い感受性を示す。また大すう期以降の鶏では、大すう・産卵直前の若鶏、老鶏の感受性が高い傾向にある。			
キーワード（専門区分） （フリーキーワード）		（研究対象）	家禽－鶏
サルモネラ、SE、日齢、感受性			
実施機関名（主査）		畜産総合研究センター	生産技術部 養豚養鶏研究室
（協力機関）			
（実施期間）		2004年度	

[目的及び背景]

初生ヒナや産卵開始期の採卵鶏はサルモネラ（SE）に対する感受性が高いことが報告されているが、採卵鶏の日齢によるSE感受性についての詳細な検討は無い。感受性の高い日齢の把握は、SE防除の重要な要因となる。そこでいくつかの日齢の採卵鶏にSE攻撃を実施し、感受性を比較検討した。

[成果内容]

日齢の異なる同一銘柄の白系採卵雌鶏を用いて試験を実施した。

1. 孵化後1週までのヒナでは、加齢共に感受性の低下がみられたが、孵化直後のヒナの感受性は著しく高かった（図1）。
2. 大すう期以降の採卵鶏では、産卵開始期の鶏より、大すう、産卵直前の鶏、老鶏の方が高い感受性を示す傾向が認められた（図2～4）。
3. 老鶏においては、卵巣・卵管からSE分離菌数も他の日齢より多い傾向にあった（図5）。

従来報告では産卵開始後からピーク時までのSE汚染に注意が払われていたが、ワクチン接種・移動などのストレスがかかる大すう期、産卵前の老鶏でのSE感染にもさらなる衛生管理の徹底が求められる。また、強制換羽は極力避ける方が望ましい。

[留意事項]

[普及対象地域]

千葉県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

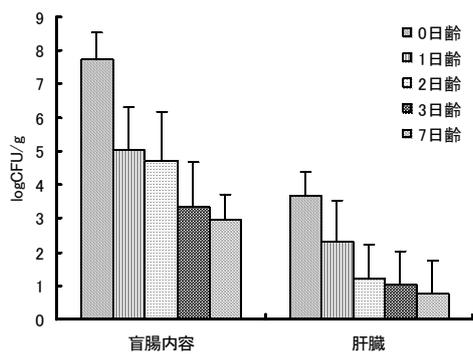


図 1 孵化後1週までの日齢別攻撃後SE平均分離菌数

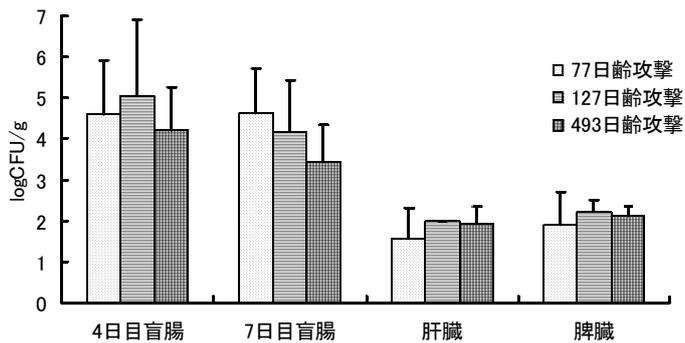


図 2. 攻撃後のSE平均分離菌数(試験 I)

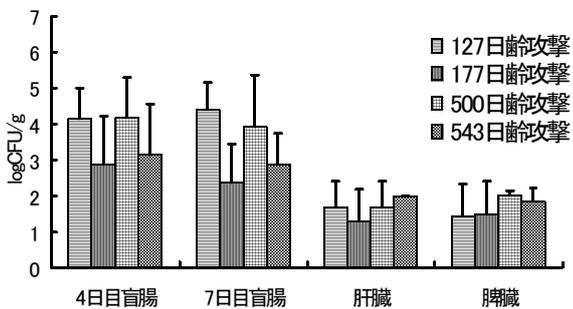


図 3 攻撃後のSE平均分離菌数(試験 II)

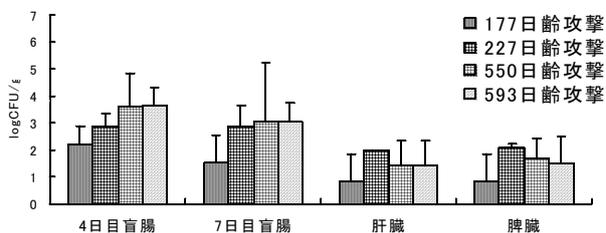


図 4 攻撃後のSE平均分離菌数(試験 III)

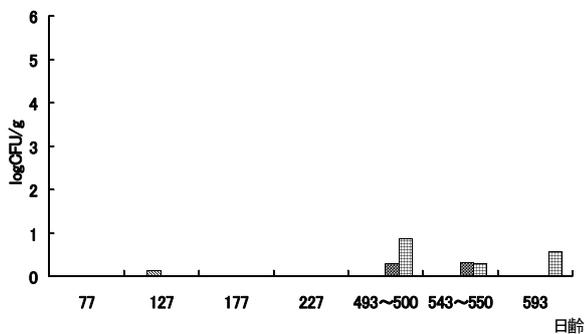


図 5 攻撃7日目の卵巣からのSE平均分離菌数

[発表及び関連文献]

第138回日本獣医学会 (2004)
平成16年度試験研究成果発表会資料 (養鶏)

[その他]

